

土砂防だけよりの



薩埵峠からの富士山（静岡市）

年頭の御挨拶	2
2022年しずおかの砂防10大ニュース	
令和5年度 政府予算案閣議決定	3
全国治水砂防促進大会及び支部要望活動	4
逢初川土石流の発生原因調査報告書の公表	5
逢初川の復旧に向けての取り組み	
令和4年の土砂災害の発生状況	6
台風15号の概要について	7
静岡県砂防ボランティア協会が台風15号の災害調査を実施	
台風15号の災害対応について	8
わがまち（三島市）	9
歴史探訪 県内初の急傾斜地崩壊対策事業	
インフォメーション	10
お知らせ	12

速報

令和5年度 政府予算案閣議決定

特集

全国治水砂防促進大会
及び支部要望活動

総括

令和4年の 土砂災害の発生状況



年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 須藤 秀忠

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員をはじめ関係者の皆様におかれましては、日頃から当支部の活動に対し、多大なる御支援と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、全国では平年より少ない788件の土砂災害の発生件数であったものの、8月初旬には新潟県、9月の台風14号では鹿児島県、宮崎県に、台風15号では本県などに大雨をもたらし、局地的に多くの土砂災害が発生しました。

本県におきましては、8月の台風8号では松崎町で、9月の台風15号では静岡市以西で多くの土砂災害に見舞われるなど、計211件の土砂災害が発生しました。特に台風15号におきましては、県内に記録的短時間大雨情報が16回も発表されるなど記録的な大雨となり、161件の土砂災害が発生し1名の方がお亡くなりになりました。

これらの土砂災害のうち、土石流が発生した西伊豆町仁科、松崎町雲見、静岡市葵区油山、藤枝市旭が丘の4箇所、がけ崩れが発生した下田市敷根、磐田市平松の2箇所については、県当局の迅速な対応により災害関連緊急事業に採択されたことから、地域住民のため早期の工事完了を期待しております。

また台風15号の災害については、国の激甚災害の指定を受けたことから、県内で初めて静岡市内の2箇所において、保全人家5戸未満でも対策ができる災害関連地域防災がけ崩れ対策事業が採択になったと聞いています。

土砂災害を防止するためには、国・県により土砂災害防止施設の整備を更に推進していただくとともに、日頃から住民の防災意識の向上と併せ、豪雨等で危険性が高まった際の実効性のある避難体制の構築がさらに重要になってきております。県が進めている土砂災害警戒区域看板の設置と市町によるハザードマップの作成・配布、住民への避難情報の適時適切で確実な伝達方法を確立し、一層充実・強化を図っていくことが重要です。

昨年度から始まった、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」により、「土砂災害による死者数毎年度0人」を目指し、引き続き県と連携し、地域の安全・安心を確保できるよう砂防関係事業の普及・発展に努めてまいります。会員の皆様におかれましても、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年こそ平穏な年であるよう祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。

2022年 しずおかの砂防 10 大ニュース

令和4年の土砂災害発生件数は211件で近年で最多

令和4年の土砂災害は台風15号を中心に211件(土石流等61件、地すべり4件、がけ崩れ146件)で過去30年で最多となり、死者1名、負傷者3名の人的被害が発生しました。

記録的な豪雨であった台風15号

9月23~24日の台風15号において、記録的な豪雨により、県中西部を中心に、土砂災害発生件数が167件、死者1名となるなど大きな被害となりました。

台風15号による土砂災害を受けて 県内初の災害関連地域防災がけ崩れ 対策事業が静岡市で採択

台風15号による災害が国の激甚災害の指定を受けたことから、静岡市清水区の2箇所において、県内初の災害関連緊急地域防災がけ崩れ対策事業を国に申請し、事業採択となりました。



逢初川土石流の発生原因調査報告書の公表

令和3年7月に発生した逢初川の土石流について、県は土石流の発生原因を調査、解析等を実施し、5回にわたって開催した「逢初川土石流の発生原因調査検証委員会」の検証を経て、9月15日に「逢初川土石流の発生原因調査報告書」を公表しました。



4月豪雨の土砂災害を受けて、全国最速で災害関連緊急事業が採択

4月の豪雨により賀茂郡西伊豆町仁科において土石流が発生し、店舗や国道に土砂が流出したため、再度災害防止のため、災害関連緊急砂防事業を国に申請し、全国最速の5月30日に採択を受け、事業に着手しました。



令和5年度 政府予算案閣議決定

12月23日(金)、令和5年度政府予算案が閣議決定されました。国土交通省の行政経費等を含む予算額は、国費ベースで対前年度比1.00倍の5兆8,714億円となり、防災・減災・国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図っていきます。

予算のポイントの内、砂防関係事業に関するものを示します。

国土交通省関係予算国費

(単位:億円)

事 項	令和5年度 (A)	令和4年度 (B)	対前年度倍率 (A/B)
水管理・国土保全局関係予算	9,710	9,517	1.02
治水事業等関係費	8,937	8,903	1.00
河川関係	7,374	7,349	1.00
砂防関係	1,393	1,384	1.01
海岸関係	170	170	1.00
下水道事業関係費	773	614	1.26
社会資本総合整備	13,505	13,973	0.97
うち防災・安全交付金	8,313	8,156	1.02
その他(道路・港湾等)	35,499	35,018	1.01
合 計	58,714	58,508	1.00

左記計数には、

- (1) デジタル庁一括計上分を含まない。
- (2) 個別補助化に伴う増分182億円を含む。

■ 砂防関係事業の新規制度等

【防災まちづくりと連携した土砂災害対策の推進】

<「まちづくり連携砂防等事業」の拡充>

土砂災害リスクに関する情報を適切に共有し、そのリスク情報に基づいて砂防事業の計画とまちづくりの計画を一体的に検討することで、まちづくりと連携した土砂災害対策を推進する。

(拡充事項① 事業対象区域の追加)

事業対象区域を、居住誘導区域に加え、立地適正化計画や立地適正化の方針または、市町村管理構想において地域生活拠点として位置づけられた区域にまで拡大。

(拡充事項② 急傾斜地崩壊対策事業におけるがけ高要件の拡充)

まちづくり連携砂防等事業における急傾斜崩壊対策事業のがけ高の要件を10m以上から5m以上に拡充。

【気候変動を踏まえた土砂災害対策の推進】

<土砂・洪水氾濫対策の推進>

気候変動の影響に伴う豪雨の増大による、土砂・洪水氾濫の頻発化を踏まえ、高リスクエリアの抽出を進めるとともに、土砂・洪水氾濫対策に適した施設配置計画への見直しと施設整備を推進。

<複合災害リスクに備えた土砂災害の推進>

同一地域内での土砂災害と洪水氾濫の重複発生リスクの増加に対し、砂防事業と河川事業を連携して実施し、複合災害に対する地域の早期安全性確保を図る。

特定利用斜面保全事業を活用した命山が湖西市で完成

県と湖西市が、平成27年度から湖西市上田町地区で進めてきた急傾斜地崩壊対策工事で命山を整備することで一挙両得となる特定利用斜面保全事業が令和3年度に完成した。また、今年度の全建賞を受賞した。



防災功労者内閣総理大臣表彰を 土屋静岡大学名誉教授が受賞

令和4年防災功労者内閣総理大臣表彰として、静岡大学名誉教授の土屋智(つちやさとし)氏が受賞されました。土屋氏は県のホームドクターとして、卓越した技術力と経験に基づき、県の砂防行政等に多大な功績を残されたことが高く評価されました。



4年ぶりとなる砂防フェスティバル 2022が静岡市内で開催

6月18日(土)、青葉シンボルロード(静岡市葵区)で「みんなで防ごう土砂災害～砂防フェスティバル2022～」を4年ぶりに開催しました。



「土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール」の表彰

「土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール」で静岡市立城内中学校の中司杏実さんが絵画の部にて、国土交通事務次官賞を受賞しました。3月23日に県庁で行われた表彰式において、静岡県知事賞1名、交通基盤部長賞1名、全国治水砂防協会静岡県支部長賞4名とともに表彰しました。



全国治水砂防促進大会の開催

11月15日(火)、全国治水砂防促進大会が砂防会館で開催され、当支部からは13名の会員が参加。大会後には県選出国会議員と国土交通省への要望活動を実施しました。



番外

逢初川土石流の対応について、陣頭指揮を執った難波元副知事が県を退職。

※順番、枠の大小、写真の有無などについては、ニュースの大小を表していません。

全国治水砂防促進大会及び支部要望活動

11月15日(火)に、全国治水砂防促進大会が砂防会館で開催されました。全国から、会員(市町村長)や国・都道府県の砂防事業関係者1,300名超が参加され、当支部からは13名の会員が出席されました。

大会は、森山裕会長の挨拶、斎藤鉄夫国土交通大臣の祝辞に続き、三上幸三砂防部長から「「いのち」と「くらし」を守る砂防の取組み」と題した講演をいただきました。その後、会員代表として、新原芳明広島県市長から意見発表が行われました。次に、新潟県出雲崎町長の小林則幸副会長から大会提言について説明がなされ、満場一致で採択されました。

大会終了後、地元選出国會議員及び国土交通省へ、令和5年度予算確保に向けて要望活動を行いました。

お忙しい中、御出席いただきました会員の皆様には心より御礼申し上げます。



森山会長の挨拶



斎藤国土交通大臣の祝辞

静岡県支部の要望

○地域住民の生命・財産と県土を守る砂防関係事業への特段の配慮

1. 直轄砂防事業の推進

■重点箇所

- 富士山砂防事業：富士山麓の火山砂防事業と火山噴火に対する防災対策
- 安倍川砂防事業：大谷山腹工、有東木地区砂防堰堤工群等
- 狩野川砂防事業：松沢川砂防堰堤群、加殿地区砂防堰堤群等

2. 直轄地すべり対策事業の推進

■重点箇所

- 由比地区地すべり対策事業：深礎杭、排水トンネル等

3. 県による土砂災害防止施設の整備と県・市町によるソフト対策の推進への支援・協力

■重点箇所

- 社会生活や経済活動を支える地域の基礎的なインフラを集中保全する取組の推進
- 自助・共助を強力に支援するため、地域の防災力を高める警戒避難体制の推進
- ライフサイクルコストの縮減や新技術の活用による既存施設の老朽化対策の計画的な推進
- 砂防施設整備や管理、防災・災害対応等の砂防事業におけるDXの推進

○「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」のさらなる推進



要望書

全国治水砂防協会静岡支部



井林衆議院議員への要望活動



深澤衆議院議員への要望活動



城内衆議院議員への要望活動



田中衆議院議員への要望活動



渡辺衆議院議員への要望活動



牧野参議院議員への要望活動



平山参議院議員への要望活動

参加会員

富士宮市、伊豆市、湖西市、東伊豆町、南伊豆町、西伊豆町、函南町、川根本町、森町、三島市、富士市、袋井市、河津町(13市町/35市町) ※太字は市町長が参加：9名

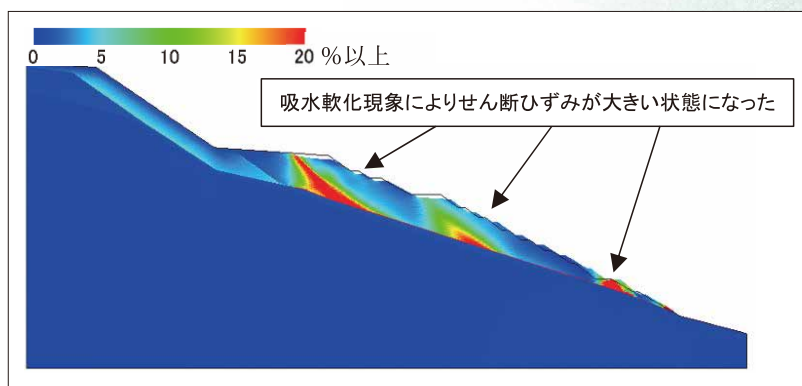
逢初川土石流の発生原因調査報告書の公表

令和3年7月3日の土石流発生後、県では土石流の発生メカニズム解明のための作業チームを立ち上げ、調査や解析を行うとともに、土木学会、地盤工学会、砂防学会の3学会からの推薦者で構成される「逢初川土石流の発生原因調査検証委員会(以下、委員会)」の指導・助言を受けて、「土石流の発生原因調査報告書(以下、報告書)」の作成を進めてきました。このほど、9月8日に開催された第5回委員会において報告書を検証し、9月15日に公表しました。

報告書は、現地調査や数値解析等により、他流域からも大量の地下水が盛り土へ供給され、盛り土内の間隙水圧やせん断ひずみが大きくなることで土が水を吸い込み急激に軟らかくなる「吸水軟化現象」がすべり面を形成し、盛り土は数次にわたる崩落に至ったと結論付けました。



第5回検証委員会後の記者会見の様子



盛り土崩落前のせん断ひずみ分布図(土石流発生58時間後(7月3日午前10時))

逢初川の復旧に向けての取り組み

現在、逢初川上流部における再度災害防止に向けて、国が砂防堰堤の整備、県が行政代執行による盛り土の撤去を進め、被災された方々や地域住民の不安解消に努めているところです。

1. 直轄砂防堰堤の進捗について

国土交通省では、3月23日から新設砂防堰堤の掘削に着手し、9月16日に本堤部が完成しました。現在、副堤下流部のコンクリート打設を施工しており、令和4年度中の完成を目指して工事を進めています。県では、新設砂防堰堤が完了後の施設管理引継ぎに向けて、必要な調整を行っていく予定です。



砂防堰堤の施工状況

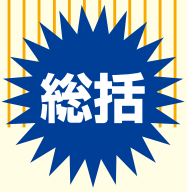
(11月25日撮影)

2. 盛り土の撤去について

県は、土地の前所有者で盛り土を造成した不動産会社が、「静岡県盛土等の規制に関する条例」に基づく措置命令に従わなかったため、行政代執行による盛り土の撤去を実施することとなりました。10月11日(火)午前、熱海市伊豆山の現場において、難波喬司理事の宣言で現場作業に着手し、令和5年5月頃までに盛り土の撤去を実施する予定です。



行政代執行開始の宣言の状況



令和4年の土砂災害の発生状況

令和4年の県内における土砂災害は、台風15号等の豪雨等により、各地で土石流61件、地すべり4件、がけ崩れ146件、合計211件の土砂災害が発生し、過去30年で最多となり、近年10年間の平均値48件を大きく上回りました。

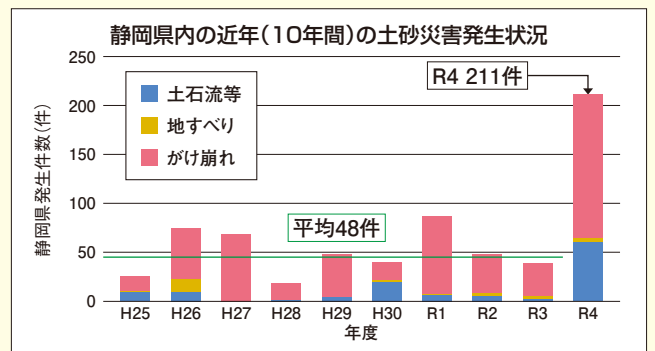
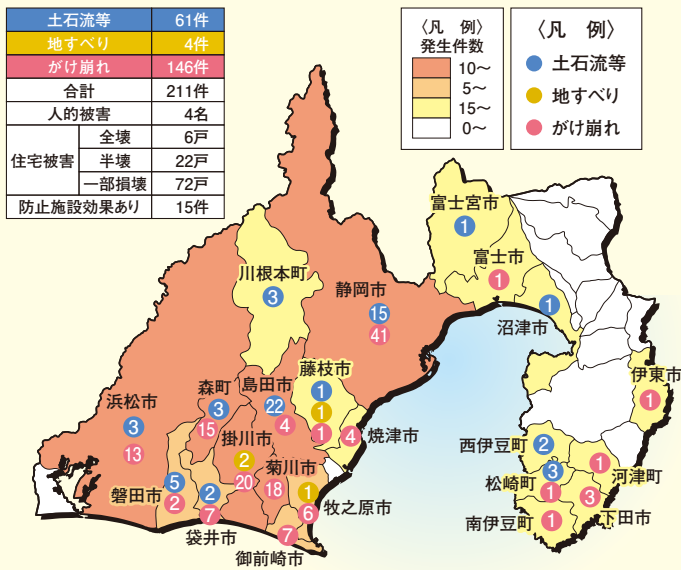
県では、引き続き砂防堰堤等の施設整備を進めていくとともに、県民の皆様の日頃の備えや適切な避難を実行して頂くため、的確な防災情報の提供や土砂災害に関する啓発活動に努めていきます。

令和4年 土砂災害の発生状況(国交省所管)

種別	年次	令和4年												計
	発生日	4月3日 ~4月4日	4月22日	4月29日	5月14日	5月24日	6月20日 ~6月22日	6月27日	7月8日 ~7月10日	7月15日 ~7月17日	7月22日 ~7月26日	8月12日 ~8月15日	9月23日 ~9月24日	
	原因	降雨	豪雨	豪雨	梅雨前線 豪雨	梅雨前線 豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	豪雨	台風8号	台風15号	
土石流等	発生件数	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	3	54	61
地すべり	発生件数	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	4
がけ崩れ	発生件数	2	2	1	1	1	2	1	14	3	2	6	111	146
計		2	4	1	1	1	2	1	14	5	3	10	167	211
内施設効果あり		0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	12	15

土砂災害発生位置図

※数字は発生件数



土砂災害の発生状況写真



「雲見川(賀茂郡松崎町)」で災害関連緊急砂防事業が採択



8月12~14日の台風8号により「雲見川(賀茂郡松崎町)」において、土石流が発生しました。再度災害を防止するため、早急に災害関連緊急砂防事業実施の手続きを進め、10月4日に採択されました。今後、測量設計及び用地補償を早急に進め、砂防堰堤の早期完成を目指します。

溪流名	設置種別	計画諸元	概算額	保全対象
雲見川(右支川)	砂防堰堤工	H=10.0m、L=38.5m	約4億円	人家16戸
雲見川(上ノ沢川)	砂防堰堤工(嵩上げ)	H=9.5m、L=46.0m		



台風15号の概要について

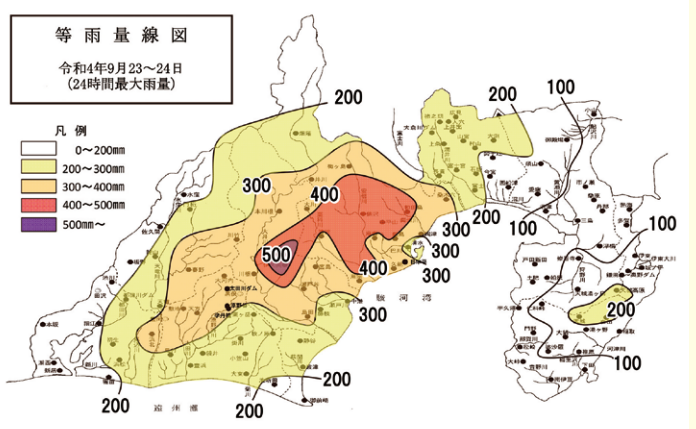
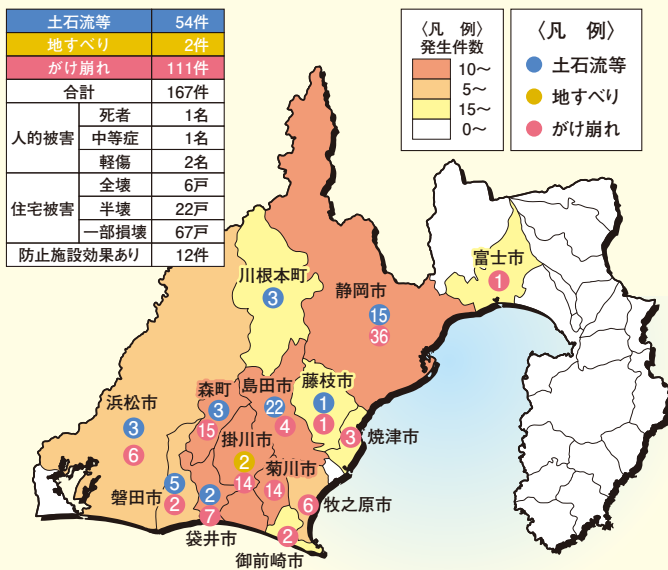
9月23日～24日の台風15号により土砂災害が発生し、死者1名、負傷者3名、住宅の全壊6戸、半壊22戸、一部損壊67戸の甚大な被害となりました。県内における土砂災害は167件(土石流等：54件、地すべり：2件、がけ崩れ：111件)で、近年10年間の平均値48件を大きく上回りました。

県西部から中部では、23日夜のはじめ頃から24日明け方にかけて猛烈な雨が降り、記録的短時間大雨情報(1時間に110mm以上の雨)が16回発表されました。特に伊久美雨量観測所(島田市)では1時間最大雨量127mm、24時間最大雨量544mmを記録するなど、県中西部において記録的な豪雨が観測されました。

台風15号 土砂災害の発生状況(国交省所管)

土砂災害発生位置図

※数字は発生件数



台風15号 被害状況写真



静岡県砂防ボランティア協会が台風15号の災害調査を実施

9月23～24日にかけて甚大な被害をもたらした台風15号では、発災後5日経過しても一部の地域において、土砂災害の状況が把握できなかったことから、県は静岡県砂防ボランティア協会に対し、被害状況調査を依頼しました。

静岡県砂防ボランティア協会は、県砂防課の勤務経験のあるOBや職員で構成された組織であり、今回3名のOBが災害調査を実施しました。災害調査の実施にあたり、県土木事務所や役場に出向き、情報収集を行い、現地の状況を確認し、土木事務所や役場に対し状況報告や助言を行いました。



土木事務所長からの聞き取りの様子



役場職員からの聞き取りの様子



現地調査の状況

台風15号の災害対応について（災害関連緊急事業）

9月23～24日の台風15号により、発生した土砂災害のうち、次期の出水や降雨によってさらなる被害が発生するおそれのある箇所について、緊急的な対策工事を実施するため、災害関連緊急事業実施の手続きを進め、採択されました。今後、詳細設計や用地の取得等を早急に進め、砂防堰堤等の防災工事の早期完成を目指します。

また、台風15号による災害が国の激甚災害の指定を受けたことから、静岡市清水区の2箇所において、県内初の災害関連緊急地域防災がけ崩れ対策事業を国に申請し、採択されました。

箇所名	位置	概要	保全対象	概算額	施行主体
油山川	静岡市葵区油山	砂防堰堤工2基	人家71戸	約4.1億円	静岡県
旭ヶ丘西沢	藤枝市原	砂防堰堤工1基	人家10戸	約1.9億円	静岡県
平松藪下B	磐田市平松	法面工1式	人家5戸	約1.5億円	静岡県
河内中村*	静岡市清水区河内	法面工1式	人家3戸	約2.2億円	静岡市
西里黒川山B**	静岡市清水区西里	法面工1式	人家2戸	約1.3億円	静岡市

※災害関連緊急地域防災がけ崩れ対策事業



油山川での土石流の被害状況



平松藪下Bでのがけ崩れの被害状況



河内中村でのがけ崩れの被害状況

台風15号の災害対応について（効果事例）

台風15号により発生した土砂災害のうち、県が整備した砂防堰堤や急傾斜地崩壊防止施設により12箇所です砂を捕捉し、人家や下流域への被害を軽減しました。

効果事例

No	場所	区域名	土砂捕捉量
1	静岡市葵区油山	油山川	調査中
2	静岡市葵区牛妻	森谷沢	調査中
3	静岡市葵区桂山	桂山片瀬	約200㎡
4	静岡市葵区内牧	内牧中C	約30㎡
5	静岡市葵区内牧	内牧マノ上	約100㎡
6	静岡市葵区大岩	大岩城山	約20㎡
7	静岡市葵区中沢	中沢西山	約25㎡
8	静岡市葵区油山	油山日向山	約50㎡
9	静岡市葵区足久保口組	足久保口組一免原	約100㎡
10	静岡市清水区伊佐布	伊佐布矢下川原	約500㎡
11	静岡市清水区西久保	西久保一丁目	約100㎡
12	富士市中之郷	幸町	約20㎡

効果事例写真（代表事例）



三島市は静岡県東部に位置し、源頼朝ゆかりの三嶋大社の門前町として、また東海道五十三次の11番目の宿場町として古くから栄えた歴史と文化のまちです。東海道新幹線三島駅があり、東京まで約40分の立地であることに加え、東名沼津IC・新東名長泉沼津ICなど伊豆や富士・箱根方面への起点となる県東部の交通の要所となっております。

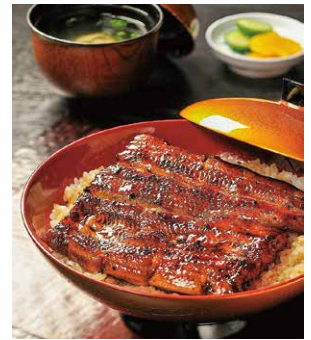
富士山の雪解け水がまちのいたるところから湧き出す「水の都」三島。市街地を流れる源兵衛川は、初夏になるとホタルが舞い、「駅から徒歩5分でホタルに出会えるまち」として親しまれています。

また、食を楽しむまちとしても魅力的な三島。火山灰土が堆積した土壌から収穫される馬鈴薯や人参、甘藷などの箱根西麓三島野菜をはじめ、三島のおいしい水でさらしたうなぎや馬鈴薯を使った三島コロッケなど、絶品フードが盛りだくさんです。ぜひ、三島を訪れた際にはご賞味ください。

三島市は北に箱根・愛鷹へとゆるやかに、東に箱根の急斜面が存在することから市内には119箇所の土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域が指定されており、土砂災害ハザードマップを作成し、市民へ危険箇所の周知を図っています。

また、土砂災害を未然に防ぐため「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」に基づき、急傾斜地崩壊防止区域32事業において県と連携を図り、急傾斜地崩壊対策施設を整備するとともに適切な維持管理に努めているところであります。

近年の突発的な豪雨など、予測困難な異常気象でいつ災害が発生してもおかしくない状況です。今後も土砂災害を未然に防ぎ、市民が安心して生活できる地域づくりを推進してまいります。



三島のうなぎ



みしまコロッケ



源兵衛川



箱根西麓三島野菜



急傾斜地崩壊対策工事(徳倉3丁目谷戸B)

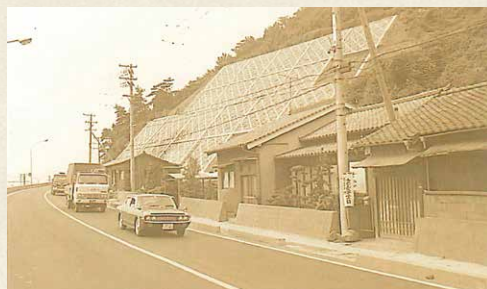
歴史探訪

県内初の急傾斜地崩壊対策事業

急傾斜地崩壊対策事業は、急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)による災害から人命、財産を保全する事業で、事業実施の背景としては、昭和42年7月に西日本各地を襲った集中豪雨により、がけ崩れの被害が多かったことから、その年に予算補助制度の創設、昭和44年7月には、「急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律」(略称：急傾斜地法)が制定公布されました。

本県においては、昭和43年に国庫補助事業として、「旭町」(富士市岩淵)、「妻良」(南伊豆町妻良)、「井戸沢」(御前崎市御前崎)の3箇所において、着工したことに始まります。また、急傾斜地法に基づく区域指定については、昭和45年3月3日に「片瀬」(東伊豆町片瀬)、「明伏」(松崎町明伏)、「久料」(沼津市西浦久料)、「天神上」(静岡市清水区蒲原)の4区域において指定されたのが始まりです。

当時は、石積工や吹付工、法枠工が施工され、現在と設計基準等が異なりますが、今なお、施設の効果を発揮し、斜面の安定に寄与しています。



昭和47年撮影



天神上(静岡市清水区蒲原)

令和4年撮影

令和4年度 東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が開催される

11月8日(火)に、東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が長良川国際会議場(岐阜県岐阜市)で開催され、当支部からは須藤支部長と杉本参事兼砂防課長が出席しました。

来賓の国土交通省の三上砂防部長からは、『「いのち」ち「くらし」を守る砂防の取組み』と題して、最新の砂防に関わる情報提供、(一社)全国治水砂防協会の大野理事長からは、「土砂災害と砂防」と題して、砂防事業を取り巻く課題等について、話題提供がありました。また、各支部の活動取組や課題について、各支部長との熱心な意見交換が行われました。



会議の様子

土屋智氏が防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました

9月13日(火)に、内閣総理大臣官邸において、防災功労者内閣総理大臣表彰式が行われました。

内閣府では、水防活動、土砂災害防止活動、緊急災害対策活動に顕著な功績があった、個人や団体に対し表彰を行っており、令和4年度は個人の部で静岡大学名誉教授の土屋智(つちや さとし)氏が表彰されました。

土屋氏は、土砂災害に関する各種委員会で委員長等を歴任し、県のホームドクターとして、卓越した技術力と経験に基づいた委員会運営により、県の砂防行政において、多大な功績をあげられました。

また、砂防学会及び地すべり学会において要職を歴任され、学会の発展と科学技術の振興及び安全な地域社会の実現に向けて、多大な功績を挙げられました。



集合写真(前右から2番目が土屋氏)

東海地区土砂災害防止法担当者会議が開催される

10月24日(月)に、東海地区土砂災害防止法担当者会議がハートフルスクエアG(岐阜県岐阜市)で開催されました。

この会議は、土砂災害防止法の適切な運用を図るために、各県の取組や課題等を情報共有するもので、今年度は主に気象庁キキクルの改定に合わせた土砂災害警戒情報提供システムの更新、土砂災害警戒区域等の2巡目指定について活発な意見交換が行われました。



会議の様子

東海地区砂防担当者会議及び東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議が開催される

11月2日(金)に、東海地区砂防担当者会議が愛知県三の丸庁舎(愛知県名古屋市中)で、11月17日(木)に、東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議が浜松総合庁舎(浜松市)で開催されました。

各県の担当者のほか、国土交通省砂防部、中部地方整備局地域河川課の担当者が出席しました。

砂防担当者会議は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会議のみの開催となり、地すべり・急傾斜地担当者会議では、感染拡大防止に十分配慮した上で、命山整備と連携し特定利用斜面保全事業を活用した「上田町」急傾斜地崩壊危険区域(湖西市新居地内)を視察した後、会議室にて意見交換を行いました。

両会議とも各県が抱える技術的な課題や、国から情報提供として近年の砂防関係事業の動向など活発な意見交換が行われました。



国、各県の意見交換の様子(浜松市内)



「上田町」(湖西市新居地内)の現場視察の様子

ジオフォーラム2022 IN 静岡が開催される

10月28日(金)に、3年ぶりに静岡県地質調査業協会主催(当支部後援)による「ジオフォーラム2022 in 静岡」が静銀ユーフォニア(静岡市)で開催され、150名を超える参加がありました。

今回は、「盛土を考える」をテーマに、コンサルタントや県の担当者による7つの技術発表が行われました。また、静岡大学未来社会デザイン機構の小山真人教授による「プラタモリで学ぶ大地の成り立ちとその伝え方」と題した特別講演があり、地形・地質のおもしろさを優しく伝えるための社会へのアウトリーチについての講演がありました。



地質技術者による技術発表

事業評価監視委員会が開催される

11月15日(火)に、令和4年度第2回静岡県事業評価監視委員会(第1回:8月17日)が県庁で開催されました。砂防関係事業では、再評価で急傾斜地崩壊対策事業の「大久保」(沼津市)など全8件(急傾斜8件)が審議され、「いずれも事業を継続するのが相当である」との意見がとりまとめられました。

また、委員会では、「今回の再評価事業において、事業費や事業期間が大幅に増加となった事業が散見されたことから、今後は、当初計画時における、より詳細な検討、計画に取り組みたい。」等の審議結果が取りまとめられました。

事業名	箇所名	所在市町名	採択着工年度	審議結果	完了年度(予定)
急傾斜地	寺の脇	松崎町	H30	継続	R5
//	行田山	伊豆市	H30	継続	R9
//	青羽根岩下B	伊豆市	H30	継続	R7
//	壺之上A	伊豆の国市	H30	継続	R5
//	大久保	沼津市	H25	継続	R6
//	横砂大平山	静岡市	H29	継続	R7
//	出本	島田市	H30	継続	R5
//	大沢寺	藤枝市	H30	継続	R7

インターンシップ実習生の受入れ

8月29日(月)~9月2日(金)まで砂防課を含む河川砂防局で2名のインターンシップ実習生を受け入れました。県では、就職を考えている学生に、県庁における就業体験の機会を設けることにより、職業意識の向上や県政に対する理解を深めてもらうことを目的として、実習生の受入れを行っています。今回、河川砂防局が受入れた2名は、河川砂防に関心のある大学3年生で、土木職員の役割や業務内容などの説明を受け、河川・海岸・砂防に関する実習や現場の見学を行いました。また、若手職員との意見交換では、県職員になるための心構えや勤務状況などについて、熱心に耳を傾けていました。実習生からは、県職員になりたいとの意識が高くなったとの意見が聞かれました。



由比地すべり管理センターでの説明状況

「土砂災害防止講習会」及び「土砂災害出前講座」、「ひとくち講座」の開催

土砂災害による人的被害を未然に防止するためには、地域住民が土砂災害の恐ろしさを理解し、日頃から身の回りの危険な箇所や避難経路等を確認して、「日頃の備えと早めの避難」を心がけていただくことが重要です。

本県では、防災知識の普及活動として土砂災害警戒区域周辺の地域住民や自主防災組織の方々を対象にした「土砂災害防止講習会」や防災教育の一環として小中学生等を対象にした「土砂災害出前講座」を実施しています。

また、令和2年度から県庁見学の時間を活用し、土砂災害警戒区域が付近にある小学校を対象に、1回5分程度で土砂災害のことを説明する「ひとくち講座」を実施しています。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、講習会などを開催することが難しい環境ではありますが、感染症対策を十分に行い、今後も積極的に土砂災害防止に関する知識の普及を図ってまいります。

開催の御希望がありましたら、砂防課もしくは、お近くの県土木事務所までお問い合わせください。

令和2年度~令和4年度 講習会・出前講座・ひとくち講座の実施回数

	R2	R3	R4
講習会実施回数(受講者数)	1回(70名)	15回(642名)	30回(1,183名)
出前講座実施回数(受講者数)	3回(120名)	14回(975名)	21回(1,318名)
ひとくち講座実施回数(受講者数)	28回(469名)	13回(504名)	9回(270名)



出前講座の様子(下田市立浜崎小学校)

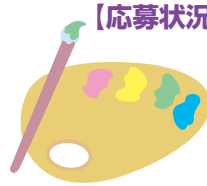


ひとくち講座の様子(静岡市立清水小河内小学校)

お知らせコーナー

土砂災害防止に関する絵画・作文の応募へのお礼

6月1日～9月15日の間、県内の小中学生の皆さんに土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくため、作品を募集したところ、多数の応募をいただき、誠にありがとうございました。なお、入選発表及び表彰式は令和5年3月を予定しています。



【応募状況】

部 門	小学生	中学生	計
絵 画	11	33	44
作 文	0	26	26
合 計	11	59	70

砂防および地すべり防止講習会のお知らせ

砂防および地すべり対策業務を担当する職員の実務並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため、講習会が開催されます。

日 時：令和5年2月17日(金)
 会 場：砂防会館 別館 シェーンバッハ・サポー利根
 参 加 費：2,000円
 主 催：一般社団法人 全国治水砂防協会 TEL (03)3261-8386
 問合せ先：全国治水砂防協会静岡県支部 TEL (054)221-3042



令和5年の砂防関係の主な行事

●協会本部活動予定

2月17日(金) 第63回砂防および地すべり防止講習会(砂防会館)
 5月24日(水) 評議員会・参与会(砂防会館)
 25日(木) 第87回通常総会(砂防会館)
 10月10日(火)・11日(水) 砂防現地視察と討論会(宮城県)
 11月15日(水) 参与会(砂防会館)
 16日(木) 全国治水砂防促進大会(砂防会館)

※赤字は、市町長出席行事

●支部活動予定

5月31日(水) 静岡県支部役員会および第78回通常総会(静岡市内)
 6月1日(木)～7日(水) かけ崩れ防災週間(県内各市町)
 1日(木)～30日(金) 土砂災害防止月間(県内各市町)
 1日(木)～30日(金) 急傾斜地パトロール(県内各市町)
 6月上旬 土砂災害・全国防災訓練(県内各市町)
 みんなで防ごう土砂災害(青葉シンボルロード)
 8月下旬 市町等砂防担当職員研修(静岡県庁)
 11月上旬 市町長等砂防関係事業県外視察
 11月16日(木) 市町等砂防担当職員現場研修
 砂防関係事業促進要望(議員会館等)

お詫びと訂正

砂防だよりNO.208号6ページに誤りがありましたので、お詫びして訂正させていただきます。正しくは、以下の赤字部分を追加したものとなります(7月以降に訓練開催市町も追加)。

本文6行目：統一日の参加人数 約1,100人→約1,300人
 本文9行目：統一日以外も含めた参加人数 約1,350人→約1,900人

訓練参加市町

◆6月5日(日) (24市町)
 下田市、東伊豆町、河津町、松崎町、西伊豆町、熱海市、伊東市、沼津市、三島市、御殿場市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、函南町、長泉町、小山町、富士市、藤枝市、牧之原市、川根本町、袋井市、菊川市、御前崎市、森町
 ◆6月5日(日)以外 (11市町)
 南伊豆町、清水町、富士宮市、静岡市、島田市、焼津市、吉田町、磐田市、掛川市、浜松市、湖西市



【表紙写真】

薩埵峠からの富士山(撮影地:静岡市)

写真提供: 静岡県観光協会

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編集後記

謹んで新年のお慶びを申し上げます。広辞苑で「砂防」と調べると「土砂の崩壊・流出・移動などを防止すること」と記載されています。昨年、県内各地に甚大な被害をもたらした台風15号では改めて砂防事業の大切さを痛感しました。今後も本誌を通してより多くの皆様に役立つ情報を発信できますよう、精進して参ります。本年も皆様御健勝で御多幸でありますよう心からお祈り申し上げます。全国治水砂防協会静岡県支部 書記 小杉祐子

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <https://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>